

群 教 セ	G14 - 01
	平 15.215 集

調べよう！ 振り返ろう！ 実践しよう！ われら リサイクル探検隊

- 主 題 ごみの減量化やリサイクルへの関心を高め、実践する態度を育てる指導の工夫
—— 「リサイクル探検隊」学習活動を通して ——

■特別研修員 横尾 豊 （下仁田町立馬山小学校）



- 研究の概要 小学校3年生のごみの減量化やリサイクルへの関心を高め、実践する態度を育てるために、「リサイクル探検隊」という題材を設定し学習活動を行った。スーパーマーケットの見学の際、リサイクルコーナーの設置や包装の簡略化などに気付かせることにより、児童の関心が高まった。また、課題をつかむ段階、追究する段階など学習過程に合わせた「リサイクル探検隊ワークシート」の活用により、自分にできることを考え実践する態度を育てることができた。

■キーワード 【環境教育 小学校 総合的な学習 社会科 リサイクル】

I はじめに

最近、学校で子どもたちが会話している時、「それは燃えないごみだから、そのごみ箱に捨てちゃだめだよ。」と、ごみの分別を意識した言葉や、「わたしの使っているノートは再生紙で作られているよ。」と、リサイクルに関する発言が聞かれることがある。それだけごみの分別やリサイクルといった言葉が社会の中に浸透してきているということだと思われる。

ただ、なぜこんなに細かくごみを分別しなければならないのか、分別されたごみはどう処理されるのかといった疑問を持ったり、紙や空き缶、プラスチックなどをリサイクルすることが私たちの生活にどんなよいことがあるのかといったことまで考えている児童は少ない。また、ごみの分別という言葉は知っていても、まだ使える紙をごみ箱に捨ててしまうなど、知識と実践が結びついていないことも多い。

そこで、社会科でスーパーマーケットを見学する学習に注目し、それを発展させて、社会科と総合的な学習の時間を連携させた「リサイクル探検隊」という題材を設定して学習活動を行

い、児童のごみ減量化やリサイクルへの関心を高め、自ら実践する態度を育てたいと考えた。

II 研究のねらい

「リサイクル探検隊」学習活動を通して、リサイクルへの関心が高まり、地球の資源や環境を守るために自分にできることを考え実践しようとする態度を育てることができるところを実践を通して明らかにする。

III 研究の見通し

〈見通し1〉

スーパーマーケットが店頭のリサイクルコーナーを設置したり、商品の包装を簡略化したりしていることや、商品にエコマークが付いていることに気付かせることによって、リサイクルへの関心を高めることができるであろう。

〈見通し2〉

学習過程に合わせた「リサイクル探検隊ワークシート」を活用することによって、ごみの減

量化やリサイクルについて自分にできることを考えることができるであろう。

〈見通し3〉

「リサイクル探検隊」学習活動をまとめ、発表することにより、自ら実践しようとする態度を育てることができるであろう。

IV 研究の内容と方法

1 「リサイクル探検隊」学習活動とは

今回、ごみの減量化やリサイクルへの関心を高め、自ら実践する態度を育てるために、社会科と総合的な学習の時間を連携させて「リサイクル探検隊」という題材を設定した。「リサイクル探検隊」学習活動では、まず社会の時間にスーパーマーケットを見学させる際に、リサイクルコーナーの設置や包装の簡易化など、環境的な視点から見学させることにより、児童の関心を高める。児童は、身近な所でさまざまなリサイクルが行われていることに気付くとともに、もっと知りたい、くわしく調べてみたいという気持ちを持つようになる。

そこで、総合的な学習の時間を使って自分の決めた課題を追究させていく。また、今までの自分の生活を振り返らせることにより、自分はこれから何をすべきか、また何ができるか考えさせ実践させる。

このように、「リサイクル探検隊」学習活動は、児童が自分で疑問に思ったことを調べ、自分の生活を振り返り、自分にできることを実践するという活動である。

なお、ここで使うリサイクルという言葉についてであるが、厳密に言うとしリサイクルとリデュース(ごみの量を少なくする)やリユース(何度も使う)は区別されるものである。しかし、小学校3年生の実態を考え、難しい言葉が並ぶのを避ける意味で、リデュースやリユースの考え方を含むものとしてリサイクルという言葉を使うことにする。

2 スーパーマーケットの見学

3年生の児童は、社会科の時間にスーパーマーケットを見学し、販売の工夫や商品の生産地

などについて調べる学習をする。本研究では、特にスーパーマーケットがリサイクルコーナーを設置したり、包装を簡略化したりして、環境に配慮した取り組みをしていることに焦点を当てて見学させる。児童にとって身近な存在であるスーパーマーケットが、環境に配慮した取り組みをしていることを知ることにより、ごみの減量化やリサイクルが自分にとって身近なものであるという意識を持たせ、児童の関心を高める。

3 「リサイクル探検隊ワークシート」の活用

総合的な学習の時間を使って、リサイクルについて疑問に思ったことやくわしく知りたいことを調べさせる際、課題をつかむ段階、追究する段階、振り返る段階など学習過程ごとに6枚のワークシートを活用する。

このワークシートには、学習過程に応じて児童の考えを導き出したり、まとめたりするための言葉が書かれている。児童は、ワークシートを活用することにより、今までの学習を振り返ることができ、また次は何をすればよいかがわかる。

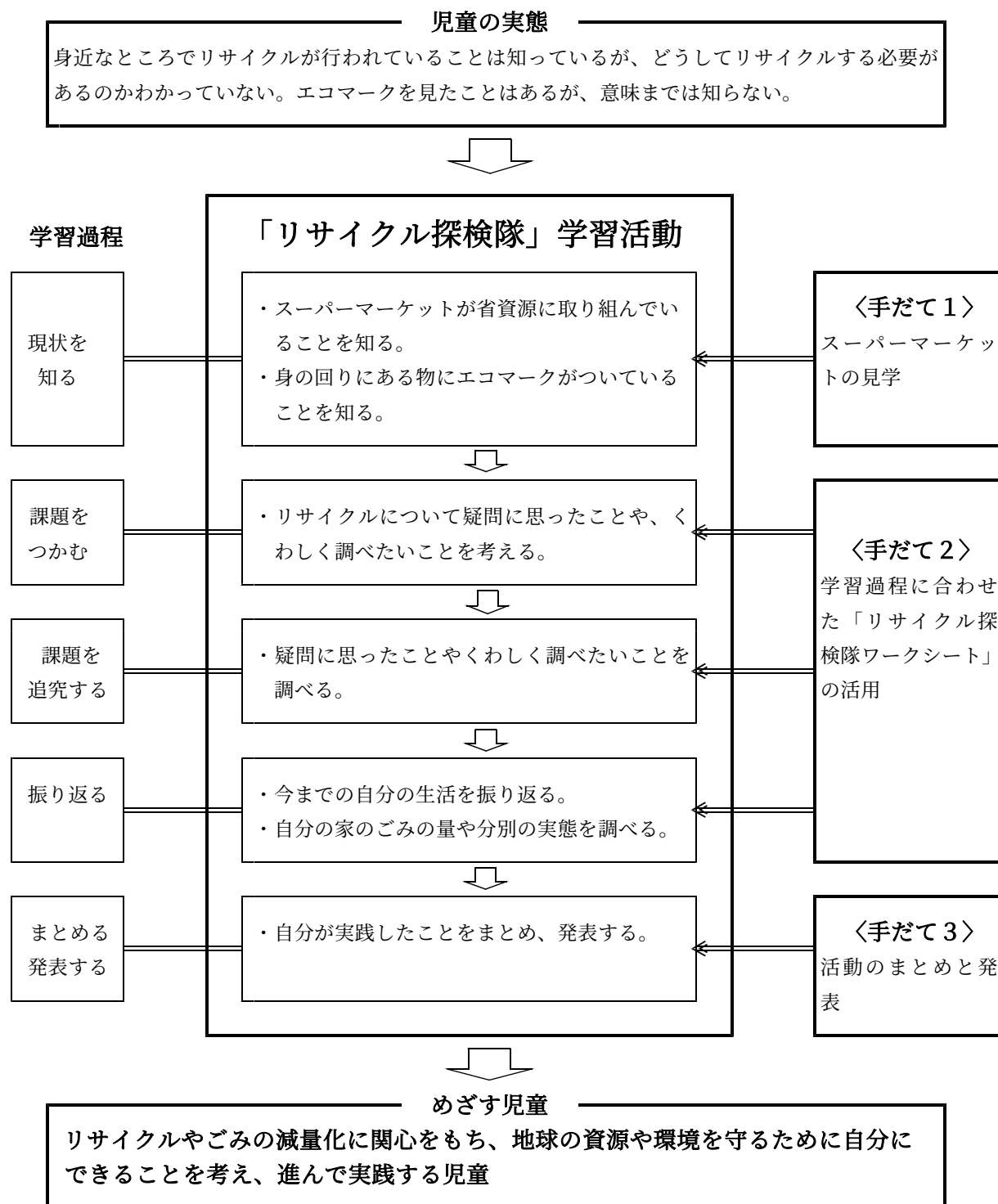
教師は、授業中に児童がワークシートに記入する様子を観察して、一人一人に応じた支援を与えることができる。また、自分にできることを実践する段階では、実践が家庭や地域など学校外で行われることが多くなるので、定期的にワークシートを提出させることにより、児童の実践の様子が把握でき、個に応じた助言を与えることができる。

4 「リサイクル探検隊」活動のまとめ、発表

「リサイクル探検隊」の活動を通して自分が調べたことや実践してきたことを、模造紙や画用紙にまとめさせる。児童に、自分が学習してきたことを他の学年の児童や保護者に発表するという目標を持って学習に取り組ませる。

また、発表させることにより、今後も自分が決めたことに取り組もうとする態度を育てる。

V 授業構想



VI 授業実践

- | | | | |
|---|------|------------------|--------------------|
| 1 | 題材名 | リサイクル探検隊 | |
| 2 | 対象 | 下仁田町立馬山小学校 3年1組 | 18名 |
| 3 | 実施時期 | 平成15年10月下旬～12月中旬 | |
| 4 | 教科等 | 社会2時間（※1） | 総合的な学習の時間8時間 計10時間 |

5 評価規準

(1) 社会科

〈関心・意欲・態度〉

- ・身近なものにエコマークがついていることを知り、リサイクルに関心をもつ。

〈知識、理解〉

- ・スーパーマーケットが省資源に取り組んでいることがわかる。

(2) 総合的な学習の時間

〈関心、意欲、態度〉

- ・リサイクルについて疑問を見つけ、進んで解決しようとする。
- ・商品の選び方やごみの出し方について今までの自分を振り返り問題点を見いだそうとする。
- ・地球の資源や環境を守るために自分にできることを考え進んで実践する。

〈思考、判断〉

- ・疑問に思ったことを解決する方法を考える。
- ・自分の生活のどこが問題なのか考え、改善策を考える。

〈技能、表現〉

- ・まとめたことを相手にわかりやすく伝える。

〈知識を応用し総合する力〉

- ・リサイクルの意義がわかる。
- ・リサイクルマークの有無などが商品を選ぶ際の基準になることを知り、買い物のとき役立てる。

学習過程	学習活動	時間	教師の支援・留意点	評 価
現状を知る (社会)	・スーパーマーケットが省資源のために取り組んでいることを知る。	1	・販売側であるスーパーマーケットが省資源のための取り組みをしていることをおさえ、消費者である児童はどんな行動をすべきか考えさせることへつなげる。	・スーパーマーケットが省資源に取り組んでいることがわかったか。
	・身の回りにエコマークなどリサイクルに関係したマークがついている物があることを知る。 	1	・児童にとって身近なノートなど、実際にエコマークがついている物を提示し、児童の関心を高める。	・身近な物にエコマークがついていることを知り、リサイクルへの関心が高まったか。
課題をつかむ (総合)	・身の回りで行われているリサイクルについて疑問に思ったことや調べたいことを考える。	1	・スーパーマーケットに見学に行ったときのことを思い出させる。 ・町内にも昨年リサイクルセンターができたことを知らせ、紹介ビデオを見せる。 ・児童が疑問に思ったことや調べたいことをワークシートに自由に書かせる。	・調べたいことが見つかったか。

課題を追究する (総合)	- 自分が疑問に思ったことを調べる。 〈リサイクルセンターに対して〉 〈給食センターに対して〉 〈リサイクルマークについて〉  - わかったことをワークシートに記入する。	3	- 児童が質問をする場所には事前に連絡をとり、協力をお願いする。 - 児童に電話をさせて調べさせる。 - 学校や家庭にあるもの、店で売っているものの中で、エコマークなどのリサイクルに関係したマークのついているものを見つけさせる。 - 回収されたペットボトルや空き缶などが再利用されるようすを調べさせ、こうしたことが地球の資源や環境を守ることにつながることに気づかせる。	リサイクルの意義がわかったか。
振り返る (総合)	- 今まで商品を買うときどんな基準で選んでいたか振り返る。 - 自分の家のごみの量や分別の実態、リサイクルの実態を調べる。	1	- リサイクルマークや包装のしかたに注意して品物を選んでいたか振り返らせる。 - 自分の家ではごみがどのくらい出るか、またごみをどのように出しているか一週間程度調べさせる。 - 事前に家庭に協力を依頼する。	今までの自分の生活を振り返り、自分の生活の問題点を見いだせたか。
まとめる・発表する (総合)	- 自分が取り組んだことをまとめる。 - 家族や他学年の児童に伝える。 	2	- 実践して感じたことやわかったことを簡単にまとめさせる。 - 自分の取り組みを他学年の児童にも紹介し、実践が他の学級や地域にも広がるようにする。	まとめたことを相手にわかりやすく伝えているか。

(※1) 社会科は、「スーパーマーケットではたらく人」という単元全体でいうと全12時間であるが、リサイクルに直接関係のある最後の2時間のみを表示した。

VII 結果と考察

- 1 スーパーマーケットが店頭でリサイクルコーナーを設置したり、商品の包装を簡略化したりしていることや、商品にエコマークが付いていることに気付かせることによって、リサイクルへの関心を高めることができたか。

児童は今までリサイクルという言葉は知っていても、それが自分と関わりがあるものという意識も少なく、あまり関心を持っていなかった。今回、社会の時間にリサイクルという言葉の意味やエコマークなどリサイクルに関係するマークがあることについて学習した。

また、スーパーマーケットを見学する際、店頭で設置されているリサイクルコーナーや、商品の包装のしかたなど、環境的な視点から見学した。見学中、児童から店長さんに質問する時間をとったが、「なぜリサイクルコーナーを設置しているのか。」「回収した物はどこへ運ばれるのか。」など、リサイクルに関わる内容の質問が出された。このスーパーマーケットは多くの児童がふだん利用しており、児童にとって身近な存在であるが、今まで気付かなかった視点でスーパーマーケットを見ることができた。店長さんからは、「牛乳パックを洗わないで持ってくるお客さんがいるので大変です。」という話も聞かされ、消費者としてどう行動すればよいかを考えるきっかけとなった。リサイクルへの関心について、学習前と学習後に行った調査の結果は次の通りである。

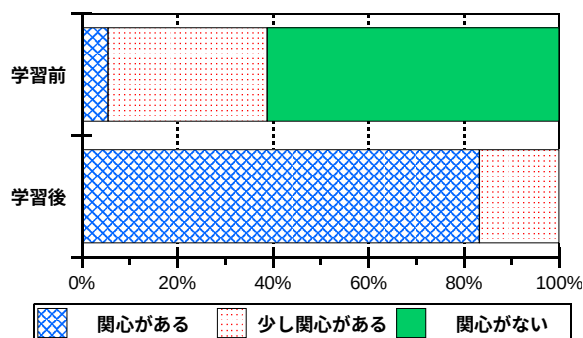


図1 リサイクルへの関心

このように、児童は今まで言葉としてしか知

らなかったリサイクルが、自分にとって身近なものであることに気づき、しだいに関心が高まっていった。

- 2 学習過程に合わせた「リサイクル探検隊ワークシート」を活用することによって、ごみの減量化やリサイクルについて自分のできることを考えることができたか。

リサイクルへの関心が高まってきた児童は、リサイクルについてもっとくわしく知りたいと思うようになってきた。そこで、調べてみたいことを決めさせ、どうすれば調べられるか考えさせた。その際、「リサイクル探検隊ワークシート」を使った。児童はワークシートに記入することによって、調べ学習の進め方がわかり、進んで学習に取り組んでいた。

リサイクルたんけんたい 2

3年 名前

★この前ぎもんに思ったことの中で、どんなことを調べますか。

あのペットボトルやカンしは、あれからどんな牛乳になるのか。

★どこで（だれに）聞けばよいでしょう。

リサイクルセンター

★どんな方法で調べますか。

電話で聞いて言葉べる。

★調べてわかったことを書こう。

ペットボトルはワイシャツやボールペン、せん用ボトルになるとは気づかなかった。牛乳パックはティッシュペーパーやトイレットペーパーになる。

図2 課題をつかむ、追究する場面で児童が書いたワークシート

次に、振り返る段階でワークシートを使って今までの自分の生活を振り返らせたり、家のごみの量や分別の実態を調べさせた。

これまでの学習でごみの減量化やリサイクルの必要性に気付いてきている児童は、ワークシートへの記入を通して、今まで自分がごみをた

くさん出していたことや、物を大切にしていなかったことに気付いた。そして、自分に何ができるか、何をすべきかを考えていた。

今回、自分にできることを考えさせる際、できるだけ実践可能なもの、そして自分の生活に密着したものの中から選ばせるようにした。実際には、3年生の児童にできることは限定され、家庭の協力などが必要になってくることも多かった。しかし、児童は3年生なりに自分にできることを真剣に考えて実践していた。

リサイクルたんけんたい 5

3年 名前

☆今までごみをへらすことやリサイクルについて学習してきました。では、これからわたしたちはどんなことに取り組めばよいのでしょうか？自分だったらこんなことがしてみたい、こんなことができそうだと考えてみましょう。

今までの自分

今までにはポイ捨てしてたけど

↓

これからの自分

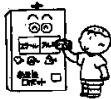
ごみばこに入れる物をへらす

↓

まず1週間取り組んでみよう

☆1週間取り組んでみてどうでしたか。うまくいったことやいかなかったこと、思ったことなどを書こう。

おやつのごみ以外はすべてなくしてすんだ。
いつもよりごみをすてなくてすんだ。
これからはごみ回ししようと思う(家族と)



☆先生から

イザレです。みんなて こういう気持ちで

とりくむことが たいせつですね。

図3 振り返る場面で児童が書いたワークシート

このように、課題をつかむ段階、追究する段階、振り返る段階など、それぞれの学習過程で合計6枚の「リサイクル探検隊ワークシート」を活用することにより、それぞれの学習過程で児童の考えを引き出すことができた。また、ごみの減量化やリサイクルについて自分にできることを考えさせることができた。

また、児童が自分で決めたことを実践する場合は、家庭であることが多かったので、定期的にワークシートを提出させ、児童の実践の様子を把握するようにした。児童に返す際には、助言や励ましの言葉を書いて渡すようにした。

3 「リサイクル探検隊」の活動をまとめ、発表することにより、自ら実践しようとする態度を育てることができたか。

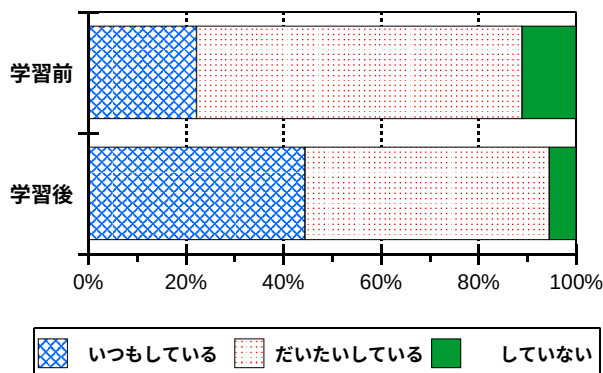
児童は、最終的には学習したことを他の学年の児童や保護者に発表するという目標をもって取り組んできた。児童は、自分たちが取り組んできたことを他の人たちに紹介し、実践の輪を広げたいという気持ちをもつようになってきた。

自分たちが取り組んできたことや調べたことを模造紙や画用紙にまとめる場面では、どうすればごみの減量化やリサイクルの大切さを相手に伝えられるか真剣に考えていた。また、発表の場面では自分が取り組んできたことを力強く発表していた。

また、発表が終わったあとも、学校生活のさまざまな場面で、ごみを減らすことを意識した行動が見られた。

たとえば、学校で図画工作の時間に画用紙を使った時、児童は余った部分を捨てずに一カ所に集めておいた。そして、他の児童がその中から自分が使うのに適した大きさの紙を持って使って使うというふうに、紙をむだにしない、ごみを増やさないという雰囲気がクラスの中にできつつある。

このように、「リサイクル探検隊」学習活動をまとめ、発表させることにより、ごみの減量化やリサイクルのために自分にできることを自ら実践しようとする態度を育てることができた。



4 ごみを減らす努力

Ⅷ 終わりに

「リサイクル」、今回の学習を通して児童が何回も口にしたり耳にしたりした言葉である。今回の学習をする前は、リサイクルという言葉は聞いたことがあっても、それがどういうものであるのか知らない児童がほとんどで、リサイクルが自分に関係がある身近なものだという意識もなかった。

今回「リサイクル探検隊」学習活動をしたことで、児童はリサイクルを身近なものに感じ、ごみ減量化やリサイクルのために自分にできることを実践しようとする態度が育ってきた。

環境教育でよく言われる言葉に、「Think globally, act locally.（地球規模で考え、足元から行動する。）」という言葉がある。今回の実践を通して、3年生の児童にもその発達段階に応じて地球の資源や環境を守るためにできることがあるということを感じた。また、環境について考えるとき、まず自分の生活を見直すことが大切だということを改めて感じた。

子どもたちの実践がこれで終わらずに今後も継続されるよう、引き続き手だてを考え支援していきたい。

Ⅸ 参考文献

北俊夫 編 『総合的な学習と教科との相互
関連』 明治図書（2001）